

大阪公立大学附属植物園 令和7年度 アライアンス・プラチナ枠による 共同研究公募要項

植物研究拠点アライアンス (Plant Science Core Alliance; PSCA) は、文部科学省認定の共同利用・共同研究拠点の内、主として植物の研究を実施する拠点が連携し、植物研究を強化するために設置された拠点連合です。PSCAに参加する拠点は次のとおりです。

- ・筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター「形質転換植物デザイン研究拠点」
- ・大阪公立大学附属植物園「過去に学び未来を拓く植物多様性保全研究・教育拠点」
- ・鳥取大学乾燥地研究センター「乾燥地科学拠点」
- ・岡山大学資源植物科学研究所「植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点」
- ・琉球大学熱帯生物圏研究センター「熱帯生物圏における先端的環境生命科学共同研究拠点」

PSCAの詳細はホームページをご覧ください。<https://psca-jurc.com/>

PSCAでは、「アライアンス・プラチナ枠」による共同研究を開始します。「アライアンス・プラチナ枠」は、申請者が2拠点以上の対応教員とチームを組み、それらの拠点の特長を生かして、設置された施設・設備を利用して行う共同研究です。

「アライアンス・プラチナ枠」の申請により、研究者間のネットワークが明確になり、さらに交流が活発になることで、各研究の一層の進展が期待されます。

大阪公立大学附属植物園では、「アライアンス・プラチナ枠」としての一般研究を募集します。

なお、「アライアンス・プラチナ枠」は、公募の時期や締め切りが、従来の共同研究公募と異なっていますので、ご注意ください。

1. 研究種目及び採択件数

一般研究「アライアンス・プラチナ枠」 若干数

各拠点における1件当たりの申請上限額

(大阪公立大学 30万円 筑波大学 40万円 鳥取大学 40万円 岡山大学 30万円
琉球大学 20万円)

研究期間: 令和7年4月1日～令和8年3月31日の1年(継続のための再応募は妨げないが、同一課題での継続は3年を上限とする)

2. 経 費

(大阪公立大学で使用する経費)

本共同研究にかかる「研究費」及び「旅費」に限ります。各研究者へ配分した当該年度の前算は、原則として2月末日までに執行してください。

◆研究費

支出は、以下に限ります。

- ① 消耗品費(単価10万円未満の物品、但し換金性の高いパソコン、タブレットは除く)

及び単価 10 万円以上の物品のうちおよそ 1 年以内に消耗する物品（実験等で消費する試薬や金属片など）。書籍、ソフトウェア、ジャーナルの購入はできません。

- ② 解析にかかる委託費用
- ③ サンプルや実験器具等の郵便運搬料（当園発着に限る）

・ 原則、納品場所は本園となります。

◆旅費

支出は、本共同研究にかかる調査研究のための旅費に限ります。

- ・ 学会発表のための旅費は支出できません。
- ・ 自家用車を利用した場合の旅費精算はできません。
- ・ 旅費は、「公立大学法人教職員等以外の旅行に関する要領」及び「公立大学法人大阪教職員等以外の旅費の支給に関する要領」に基づいて算出し支給します。
- ・ 旅費支給の対象は、研究代表者及び申請書の「7. 研究組織」に明記された者に限ります。

（他拠点で使用する経費）

各大学の各規則、規定等に基づき、当該拠点において支出します。

表 1. 各拠点経費の使用可否

研究種目	大学名	予算額 (万円)	研究費	集会開催費	旅 費								
					国内旅費			外国旅費		外国からの 招聘旅費			
					拠点まで	調査研究	学会発表	調査研究	学会発表	拠点まで	調査研究	学会発表	
アライア ンス・ プラチナ 枠	大阪公立大学	30	○	×	○	○	×	○	×	○	○	×	
	筑波大学	40	○注1	△注2	○注3	○注3	×	×	×	○注3	○注3	×	
	鳥取大学	40	○注1	×	○	×	○	○	○	○	×	○	
	岡山大学	30	○注1	×	○注2	×	×	×	×	×	×	×	
	琉球大学	20	×	×	○	○注1	×	○注1	×	○	○注1	×	

表における各大学の注意事項

【大阪公立大学】 1-2 ページ「(大阪公立大学で使用する経費)」をご覧ください。

【筑波大学】

注 1) 以下の用途で使用することができます。研究遂行にあたり必要となる消耗品（ただし一般的な事務用品を除く）、当センターでの実験にあたり必要となるリソース類の送料、当センター共通機器利用料、什器類、謝金

注 2) 研究集会、当セミナーの会場借料

注 3) 共同研究のための来学旅費及び当センターで実施する研究集会、セミナーに係る招へい旅費に限り旅費の請求可とします。やむを得ず当センター以外へ出張が必要な場合はその主旨により相応しく波及効果も十分に予想されるとセンター長が判断した場合に限り認め

るものとします。

旅費の対象となるのは研究課題代表者及び「研究参加者リスト」により事前に届出があったものとします。

【鳥取大学】

注1) 物品については、消耗品（単価10万円未満の物品（換金性の高いタブレット、デジタルカメラ及びビデオカメラは除く。）、及び単価10万円以上の物品のうちおよそ1年以内に消耗する物品）に限ります。

また、下記の項目等については、予算計上及び支出することはできません。

- ・各所属機関で整備すべき設備・備品（事務机、椅子、本棚、実験台等）
- ・汎用的な事務機器（パソコン、プリンタ等）
- ・毒物・劇物、医薬品等
- ・継続的に実施する研究補助、事務補助等に係る人件費
- ・書籍（雑誌、地図、辞書等の消耗品扱いの書籍を除く。）

【岡山大学】

注1) 消耗品費のみ支給可能です。本学受入教員に配分しますので、執行については本学受入教員までご相談下さい。

注2) 共同研究者の岡山大学資源植物科学研究所への来所に係る旅費についてのみ支給します。他拠点を窓口として招へいたした外国機関の研究者の旅費については、他拠点から当研究所への来所に係る国内移動分旅費のみ支給可能です。詳細については岡山大学資源植物科学研究所受入教員または事務室共同研究担当にお問い合わせください。

【琉球大学】

注1) 本センター施設を目的地としない場合の旅費については、申請時に計画でそのことが記載されている場合に限り支出可能とします。

3. 申請・参加資格

(1) 研究代表者

研究代表者として、申請資格を有する者は以下のとおりです。

イ～ニのうちいずれかに該当する機関に所属し、各所属機関の職務の一環として本共同研究を実施できる者（学生不可）

イ. 国公立の大学、大学院、短期大学及び高等専門学校

ロ. 大学共同利用機関

ハ. 国、地方公共団体、独立行政法人又は地方独立行政法人の設置する試験研究機関

ニ. 国又は独立行政法人の設置する省庁大学校

(2) 研究分担者

研究分担者は、研究代表者、本園共同研究教員とともに研究組織を構成する者で、研究代表者と協力しつつ、分担して採択された課題に関する研究を行う者のことをいいます。研究分担者として、研究組織に参画させることのできる者は以下のとおりです。

① 上記(1)に掲げる申請資格を有する者

② 上記(1)イ～ニのうち、いずれかに該当する機関に所属する大学院生、又はこれに準ずる学生等（但し、指導教員等の許可を得ること）

③ 日本国外における①又は②に相当する者

(3) 研究組織の変更

研究代表者の変更、研究分担者の追加等が必要となる場合は、変更・追加する者の氏名・所属・職名、および理由等を事前に拠点事務担当まで連絡願います。

4. 同一の申請者における重複申請の制限

採択された場合、本園が別途公募する共同研究に申請できない場合があります。

5. 申請方法

申請者は、事前に各拠点共同研究教員（別紙1参照）の許可を得て十分に打合せを行い、申請書（様式1・Wordファイル）及び承諾書（様式2・研究代表者及び研究分担者の所属長が作成したもの。公印不要・PDFファイル）を電子メールにて提出してください（各2MB以内）。

申請書様式は、本園HP（<https://www.omu.ac.jp/bg/research/offering/>）からダウンロード可能です。

6. 提出先（電子メール）

大阪公立大学附属植物園 拠点事務担当 E-mail : gr-bg-res@omu.ac.jp
(メールタイトルは「令和7年度共同研究課題申請書（申請者氏名）」としてください。)

7. 応募締切

令和6年10月18日（金）

8. 選考

採否及び採択額は、申請内容、予算状況等を検討・勘案の上、アライアンス・プラチナ枠選考会議において審議の上決定します。

9. 採否の通知

令和7年3月中に、申請者（研究代表者）に電子メールにて通知します。

10. 共同研究の成果発表

本共同研究による研究成果を公表する際には、当該論文・報告等に謝辞として「本共同研究により得られた成果である旨」を必ず明記し、課題番号を含めて記載してください。なお、謝辞の記載例は以下のとおりですので、記載の際の参考としてください。ただし、二重下線部分については、必ず記載してください。

また、利用した拠点すべてについてそれぞれ謝辞を記載してください。文言については本園拠点事務担当にご確認ください。

(例) 和文の場合

本研究は文部科学省特色ある共同利用・共同研究拠点支援プログラム JPMXP0723833155（課題番号No. #####）の助成を受けたものです。

英文の場合

This work was supported by MEXT Promotion of Distinctive Joint Usage/Research Center Support Program Grant Number JPMXP0723833155（課題番号No. #####）.

※当該論文ないし報告等の別刷または写し1部を本園に提出してください。

また、研究成果の発表の際には、可能な限りアライアンスのロゴマークを付記してください。

(ロゴマークは、次のURLからダウンロードしてください。

<https://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/activity/kyoudo/psca-logo.html>)

1.1. 研究成果の報告について

共同研究の研究代表者は、令和8年3月31日(火)までに、研究成果の報告書(様式3)を作成し、電子メールにてWordファイルを提出してください(2MB以内)。また、報告書様式は、本園HP (<https://www.omu.ac.jp/bg/research/offering/>) からダウンロード可能です。

(メールタイトルは「令和7年度共同研究課題報告書(申請者氏名)」としてください。)

1.2. 共同研究発表会について

令和8年5月に開催予定のアライアンス・プラチナ枠成果発表会にて、研究成果の報告を行ってください。日程は採択後に調整します。

1.3. 知的財産権の取扱い

本共同研究によって知的財産を創出した場合は、出願等を行う前に本園共同研究教員及び研究分担者にご連絡ください。併せて、所属機関の知財担当部署へのご連絡をお願いいたします。権利の持ち分、出願手続き等については、協議の上決定します。

1.4. その他

(1) 本学以外の共同研究員が研究を遂行する際に受けた損失、損害に関しては、原則として各所属機関で対応するものとし、本学は一切の責任を負いません。また、学生が共同研究に参画する場合は、傷害保険「学生教育研究災害傷害保険」等に加入させてください。

なお、本園以外の拠点からは、保険証書の写しの提出を求められる場合があります。

(2) 申請にあたり、ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

各拠点の概要、活動内容及び設備等の詳細については、各拠点ホームページをご覧ください。

また、各拠点の公募要項は各拠点ホームページ及びPSCAホームページ (<https://psca-jurc.com/>) をご参照ください。

大阪公立大学附属植物園 拠点事務担当

〒576-0004 大阪府交野市私市2000

電話：072-891-2059 FAX：072-891-2101

メール：gr-bg-res@omu.ac.jp

HP： <https://www.omu.ac.jp/bg/>

筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

電話：029-853-6006 FAX：029-853-7723

メール：ptrad@gene.tsukuba.ac.jp

HP：https://www.t-pirc.tsukuba.ac.jp/

鳥取大学国際乾燥地研究教育機構会計係

〒680-0001 鳥取県鳥取市浜坂1390

電話：0857-30-1010 FAX：0857-29-6199

メール：j_research@ml.alrc.tottori-u.ac.jp

HP：https://www.alrc.tottori-u.ac.jp

岡山大学資源植物科学研究所 共同研究担当

〒710-0046 岡山県倉敷市中央2-20-1

電話：086-434-1247 FAX：086-434-1249

メール：kyodo1247@adm.okayama-u.ac.jp

HP：https://www.rib.okayama-u.ac.jp/

琉球大学総合企画戦略部 研究推進課共同利用施設係

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

電話：098-895-8036 FAX：098-895-8185

メール：knkuodor@acs.u-ryukyu.ac.jp

HP：https://tbc.skr.u-ryukyu.ac.jp

【別紙1】 令和7年度各拠点における共同研究受入教員・専門分野・研究内容・連絡先一覧

(大阪公立大学附属植物園)

教員氏名	所属・役職	専門分野	研究内容	メールアドレス …@omu.ac.jp
名波 哲	大学院理学研究科教授	植物生態学	植物の多様な性表現と個体群維持機構に関する生態学的研究	snanami
伊東 明	大学院理学研究科教授	植物生態学	植物の更新過程と多種共存機構に関する群集生態学的研究	itoha
岡澤 敦司	大学院農学研究科教授	植物バイオテクノロジー 作物保護化学	植物による有用物質生産と生物機能などの利用による作物保護に関する研究	j21191y
小口 理一	大学院理学研究科准教授	植物生理生態学	環境の変化に対する植物の多様な応答について物質生産の視点から研究	oguchi
厚井 聡	大学院理学研究科准教授	植物進化形態学	極限環境に適応した植物の形態進化に関する進化発生学的研究	skoi
廣田 峻	大学院理学研究科特任助教	植物生態学	植物の種多様性・遺伝的多様性とそれらを創出する種分化過程に関する研究	y22854u
渡邊 誠太	大学院理学研究科特任助教	植物系統分類学	植物の形態形質と遺伝情報に基づいた系統分類学的研究と、形質進化の解明	seiwatanabe

【別紙1】 令和7年度各拠点における共同研究受入教員・専門分野・研究内容・連絡先一覧

(筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター)

教員氏名	役職	専門分野	研究内容	メールアドレス …@u.tsukuba.ac.jp
菊池 彰	教授	植物生理学	植物の環境ストレス耐性、ジャガイモの塊茎形成に関する研究	kikuchi.akira.ft
柴 博史	教授	植物遺伝学	オミクス解析による植物の生長・発生に関わる制御機構の解明	shiba.hiroshi.gm
松倉 千昭	教授	作物学 植物生理学	果実代謝生理、糖転流制御、バイオスティミュラント等	matsukura.chiaki.fw
三浦 謙治	教授	植物分子生物学	植物による有用タンパク質生産および植物におけるゲノム編集汎用化技術の構築	miura.kenji.ga
渡邊 和男	教授	植物遺伝・育種学	遺伝資源の保全と持続的利用・バイオディプロマシー	watanabe.kazuo.fa
小野 道之	准教授	植物発生生理学 バイオテクノロジー	光周性と花成の分子生理学、新規形質花卉・食べるワクチン開発の植物バイオテクノロジー	ono.michiyuki.fm
康 承源	准教授	蔬菜・花卉学	花卉植物の芳香成分解析及び生合成関連遺伝子の機能解明 果菜類のストレス耐性(耐暑性, 耐寒性, 耐病性など)に関する研究	kang.seungwon.ga
壽崎 拓哉	准教授	植物分子遺伝学	植物微生物共生および植物の環境応答機構の解明	suzaki.takuya.fn
Diana Buzas	准教授	植物分子遺伝学 エピジェネティクス	長期細胞記憶、多年生作物と野生植物	buzas.mihaela.ka
小口 太一	助教	植物分子・生理/ 植物バイオテクノロジー	植物の環境応答機構/バイオマス増産	oguchi.taichi.ge
杉本 貢一	助教	植物防衛 リソース管理	トマトリソースを使った食害防衛機構の解明	sugimoto.koichi.gu
野崎 翔平	助教	植物生化学	生化学的解析による植物シグナル伝達機構の解明	nosaki.shohei.ff
野中 聡子	助教	植物分子育種	ゲノム編集技術を利用した作物の開発、果実発達生理解析	nonaka.satoko.gt

【別紙1】 令和7年度各拠点における共同研究受入教員・専門分野・研究内容・連絡先一覧

(鳥取大学乾燥地研究センター)

教員氏名	役職	専門分野	研究内容	メールアドレス ..@tottori-u.ac.jp
黒崎 泰典	教授	ダスト気候学	ダスト（黄砂）の時間空間分布。風、土壌・地表面状態とダスト発生（風食）の関係	kuro
谷口 武士	准教授	微生物生態学	乾燥地で生育する植物共生微生物の生態学と生態系修復	takeshi
木村 玲二	准教授	気象学	大気境界層内における気象現象の観測と物理的解明	rkimura
寺本 宗正	助教	陸域炭素循環学	土壌炭素フラックスを中心とした物質循環に関する研究	teramoto.m
石井 直浩	助教	群集生態学	乾燥地における生物多様性と生態系機能の関係	ishii-naohiro
中山 理智	助教	生態系生態学	窒素を中心とした陸域物質循環および物質循環に関連する微生物動態に関する研究	nakayama.m
藤巻 晴行	教授	乾燥地灌漑排水学	節水灌漑、ウォーターハーベスティングと塩類集積対策	fujimaki
安 萍	准教授	植物生理生態学	乾燥地における農業生産の向上および植生の回復	an.ping
石井 孝佳	准教授	植物細胞遺伝学	染色体工学による新規作物改良技術の創造	ishii.t
恒川 篤史	教授	保全情報学	乾燥地における植物生産及び生態系変化のモニタリングとモデリング	tsunekawa
坪 充	教授	気候リスク管理学	乾燥地における農業気象と気候変動対応型農業	tsubo
井芹 慶彦	准教授	水文学	乾燥地における水文気象モデリング	y.iseri

【別紙1】 令和7年度各拠点における共同研究受入教員・専門分野・研究内容・連絡先一覧

(岡山大学資源植物科学研究所)

グループ	教員 (★: グループリーダー)	専門分野	研究内容	E-mail (...@okayama-u.ac.jp)
光環境適応	教授：坂本 亘 ★	植物分子生物学 遺伝学	光合成と葉緑体の環境応答	saka
	准教授：松島 良	澱粉科学	澱粉生合成についての基盤研究と澱粉変異の育種利用	rmatsu
	助教：小澤 真一郎	植物生化学 生理学	タンパク質科学に基づいた光合成の環境応答機構の解明	OzwSh1r
	助教：桶川 友季	植物生理学	光環境ストレス下における植物の光障害防御機構の解明	okegawa
環境応答機構研究	教授：平山 隆志 ★	植物分子生物学	高等植物のストレス応答の分子遺伝学的研究	hira-t
	准教授：森 泉	植物生理学	気孔運動や葉内CO ₂ 拡散の生物物理学的解析	imori
	准教授：池田 陽子	植物分子遺伝学	植物におけるエピゲノム制御のメカニズムおよび環境との相互作用	yikeda
環境機能分子開発	准教授：杉本 学 ★	環境ストレス生化学	宇宙環境における植物の適応能力の解明と宇宙環境耐性植物の開発	manabus
	助教：カ石 和英	植物分子遺伝学	コムギ種子休眠制御の解明	riki
植物ストレス学	教授：馬 建鋒 ★	植物栄養学	植物のミネラル輸送と制御	maj
	准教授：山地 直樹	植物分子生物学	植物の無機栄養素分配機構とその調節・制御機構の解明	n-yamaji
	准教授：三谷 奈見季	植物栄養学	植物のミネラル輸送体とその制御機構に関する研究	namiki-m
	助教：小西 範幸	植物栄養学	ミネラル輸送体の翻訳後制御機構の解析	Noriyuki_Konishi

【別紙1】 令和7年度各拠点における共同研究受入教員・専門分野・研究内容・連絡先一覧

(岡山大学資源植物科学研究所)

グループ	教員 (★: グループリーダー)	専門分野	研究内容	E-mail (...@okayama-u.ac.jp)
植物分子生理学	教授: 且原 真木 ★	植物生理学 植物栄養学	塩ストレス応答や水輸送制御の分子および生理学的機能解明	kmaki
	准教授: 佐々木 孝行	植物分子生物学 植物栄養学	植物特異的リンゴ酸輸送体による環境ストレス適応	tsasaki
	助教: 宇都木 繁子	植物分子生物学	種子形成過程におけるアクアポリンの水輸送調節メカニズムの解析	utsugi
植物・微生物相互作用	教授: 鈴木 信弘 ★	ウイルス学	ウイルスを利用して植物糸状菌病を防ぐヴァイロコントロール	nsuzuki
	准教授: 近藤 秀樹	ウイルス学	農作物生態系におけるウイルス多様性とその生態学的な存在意義	hkondo
	准教授: 兵頭 究	植物病理学 ウイルス学	植物ウイルスの複製機構	khyodo
植物・昆虫間相互作用	教授: GALIS IVAN ★	化学生態学 植物-昆虫相互作用学	植食性昆虫に対する植物防御の分子機構の解析	igalis
	准教授: 新屋 友規	植物免疫学 植物-昆虫相互作用学	植物の植食性昆虫による食害認識機構の解析	shinyat
植物免疫デザイン	教授: 河野 洋治 ★	植物分子生物学 植物免疫学	免疫受容体と植物サイトカインを基盤とした植物免疫の理解	yoji.kawano
	WTT助教: 深田 史美	植物病理学 微生物学	植物病原糸状菌の感染生理および植物との相互作用の解析	fumi.fukada
植物環境微生物学	准教授: 谷 明生 ★	応用微生物学	植物共生細菌の分離同定・非培養的解析・メタノール資化性細菌	atani
	准教授: 植木 尚子	植物分子生物学 遺伝子工学	赤潮原因藻ヘテロシグマの生態生理と増殖制御に関する研究	pdst7bim
ゲノム多様性	教授: 久野 裕 ★	植物分子育種 植物遺伝資源	遺伝子改変技術を利用したオオムギの有用遺伝子の同定	hiroshi.hisano
	准教授: 最相 大輔	植物育種 植物分子遺伝 集団遺伝	作物の遺伝的多様性を農業生態系への適応分化の観点から理解する	saisho

【別紙1】 令和7年度各拠点における共同研究受入教員・専門分野・研究内容・連絡先一覧

(岡山大学資源植物科学研究所)

グループ	教員 (★: グループリーダー)	専門分野	研究内容	E-mail (…@okayama-u.ac.jp)
遺伝資源機能解析	教授: 武田 真 ★	植物遺伝育種学	オオムギの種子および植物形態に関する遺伝生理学的研究	staketa
	助教: 山下 純	系統分類学	野生植物遺伝資源の収集, 保存, 系統分類及び絶滅危惧種保全研究	junyama
統合ゲノム育種	教授: 山本 敏央 ★	作物育種学	多様なイネ遺伝資源が持つ有用農業形質の探索と活用	yamamo101040
	准教授: 長岐 清孝	分子細胞遺伝解析学	動原体の解析および細胞遺伝学的エピジェネティック解析	nagaki
	准教授: 古田 智敬	植物遺伝育種学	育種を加速させるバイオインフォマティクスツールの開発と利用	f.tomoyuki

【別紙1】 令和7年度各拠点における共同研究受入教員・専門分野・研究内容・連絡先一覧

(琉球大学熱帯生物圏研究センター)

教員氏名	役職	専門分野	研究内容	メールアドレス (...@...u-ryukyu.ac.jp) AT→@へ置き換えてください
瀬尾 光範	教授	植物生理 分子生物学	植物ホルモンの作用メカニズム、種子の休眠と発芽の制御メカニズム	mseoATcomb.
岩崎 公典	准教授	遺伝資源応用学	ファイトケミカルの併用による新たな代謝調節誘導に関する研究	hiwasakiATcomb.
高橋 俊一	教授	サンゴ礁生物機能学	サンゴと褐虫藻の共生に関する研究	tshunATlab.
梶田 忠	教授	マングローブ学	マングローブ植物の系統地理学的研究、熱帯植物の系統分類学的研究	kajitaATmail.ryudai.jp
渡辺 信	准教授	マングローブ学	空撮と3Dモデリングを用いたマングローブ生理生態研究	nabeshinATlab.
内貴 章世	准教授	多様性生物学	アカネ科を中心とした被子植物の植物系統分類学的研究	naikiATlab.